

CSRレポート2019



ISO14001
Environmental Management
System



発行 2020年 5月

レックス工業株式会社

1. 私たちは、独自の技術・サービスを創造し、業界をリードする会社を目指します。
2. 私たちは、最高の製品・サービスの提供を通じて、信頼される会社を目指します。
3. 私たちは、地域社会に貢献し、社会から必要とされる会社を目指します。
4. 私たちは、共に考え、助け合える、働きがいのある会社を目指します。

トップコメント

＜SDGsへの貢献は我々の義務＞



代表取締役社長
宮川 純一

世界各地での異常気象の発生、日本でも最高気温が35度を超える夏の常態化や台風被害の甚大化など、地球温暖化が大きな原因の一つとして語られる現象が、昨今、ニュースを賑わせています。こういった地球環境へのグローバルな危機感の高まりを受け、2015年9月、国連に於いて2030年までに実現すべきこととしてSDGs（持続可能な開発目標）が採択され、17項目のゴール（目標）、169のターゲットが掲げられました。

我が国でも、官民が連携してSDGsへの取組が展開されていることを皆さんご存知だと思いますがレッキスでも、事業活動を通じて様々なグローバル課題の解決に向けて取り組んでいます。

例えば、配管の耐震化、耐久性の向上に寄与する転造技術の開発、災害に強い水道・ガスの樹脂配管のための融着機の開発などに取り組んでいます。また配管後の検査のための管内カメラや水圧・満水試験機などは現場の省人・省力化というに社会ニーズへの対応にも貢献しています。

今後も、社会に求められるライフライン・サポートに努めて参りたいと考えております。

＜社会への貢献が社是＞

弊社には、創業者が定めた、“三利の向上”という社是があり、その理念である「お客様、社員・社会の幸せ」を求める経営を守ってきたからこそ、今日までやって来られたという思いがあります。また弊社には、戦前、多くの聴覚障がい者の方々に助けられ、事業を継続できたという歴史があり、今でも障がい者雇用率10%以上を維持するとともに、地域での障がい者雇用を推進するために独自に立ち上げた「大阪府布施障害者雇用対策協議会」の事務局として活動しており、職業安定所や支援学校の方々と連携を継続しております。

また地球環境保護に貢献する活動として2003年に取得したISO14001規格遵守も継続しており、毎年各部門で目標を決め、未来の子供たちにより良い地球環境を残す活動に取り組んでいます。

＜輝かしい100周年を目指して＞

上記の「私たちが大切にしている4つのビジョン」を掲げて事業活動を行っています。これは“私たちの会社としてのありたい姿”であり、まだまだ実現に向けて道半ばではありますが、その夢の実現に向けて社員全員が不断の努力をしていこう！という決意表明です。そしてその努力の先、2025年には、お客様、社員、そして社会から「いい会社だね！」と呼ばれる企業として輝かしい創業100周年を迎えたいと考えております。引き続き皆様のご支援を、宜しく申し上げます。

最先端の技術で豊かな未来を創造する商品

レックスのモノづくりは、「お客様の喜んで頂く顔」をコンセプトに、「独自性・感動・創造性」の3つを開発ポリシーに「現場作業に見合った最適な商品」の提供を志し、作業者と作業現場に密着した商品開発を行うため、お客様の声に耳を傾け、お客様と共に歩んでいきたいと考えています。出来上がった商品は、様々な場所・場面で使用していただき、役立っていることを嬉しく思っています。



◆デッキプレート開口用切断機



建設現場では、大量の電線が配線されており、床・天井を貫通して各階に配線されるため、事前に床・天井を開く必要があります。切断場所は床の場合、床面より低く開口部に潜り込む姿勢で切断機の本体重量と切断時の振動を支えながら切り込む必要があるため、握力低下などの肉体的負担が大きく、労働環境の改善を目的とした効率的な手法をお客様企業・研究所と共同開発しました。

◆高効率酸素溶解装置 O2max



●水中での溶存酸素量が、自然条件下に比べ最大で約5倍！

飼育魚を健全に成長させるためには、飼育水の溶解酸素量の管理も非常に重要です。酸素が水中に溶け込める量は、通気の強弱だけでなく、水温と塩分によって上限が大きく異なります。

この装置（商品）は、酸素を効率よく水中に溶解させ、魚類飼育時の高生産性向上を目的とした装置です。養殖池水質改善システムは水質を改善することにより、養殖密度の向上、育成期間の短縮、病気の減少などの効果が期待できます。他、海水などにより本体が腐食しないように樹脂設計されています。

◆みるみるくん デジタル式圧力・満水試験器Ⅲ

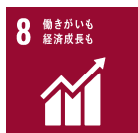


これまでレックスは、「配管すること」を主たる事業として参りましたが、「配管検査」や「配管トラブル解消」など、それぞれの現場の課題にチャレンジしています。圧力試験器Ⅲは水圧だけでなく「冷媒配管気密試験」にも対応しました。その他の特徴・メリットとして、センサーによる自動計測、データのメール転送が可能になど、データ管理の効率化や、作業工数の削減効果が増しました。

障がい者雇用への取り組み

障がいのある方を雇い入れたことをきっかけに、安心して働ける会社づくりを進めています。

2019年度は支援学校より2名が入社しました。その結果として雇用率は11.8%（2019年6月現在）と、高い障害者雇用率を維持しています。具体的な取り組みとして、社内報告会では聴覚障がい者のために外部に手話通訳を依頼したり、入社員への社会人として必要な知識の勉強会などを実施しています。この成果として本年度に大阪府障がい者サポートカンパニー優良企業の登録を受けました。



◆聴覚障がい者への取り組み

四半期毎に全社報告会を実施しています。そのほかストレスチェックのフォローとして社内研修会、健康をテーマにした健康教室など全社レベルの報告会を数多く行っています。その際には必ず手話通訳者を外部に依頼し、報告・研修内容の理解に力をいれています。鳥取工場の聴覚障がい者にも伝わるように手話通訳はインターネット中継もしています。



◆支援学校より入社した社員への取り組み

4月に入った入社員の研修を1年を通して行いました。通常の入社員研修を終えたあと、月1回の社会人として必要なマナーや、社内活動の説明などの勉強会を実施し、併せて四半期ごとの面談、会社と本人とご家族間での交換ノートのやり取りなども行っています。



◆地域で働く障がい者への取り組み

毎年5月の第二日曜日に「大阪府布施障害者雇用対策協議会」を代表して、周辺企業で働く障がい者の支援として「東大阪市民ふれあい祭り」に参加しています。今年は天候も良く開催時間とともに大勢の方が参加されていました。

この日のために多くの会員企業様から頂きましたバザー出店用の商品も順調に売れていきます。新入社員は店の向かいに立ってその他のバザー品の紹介をしたりと、当日のチームワークはとても良く、バザー商品とともにスパーボールすくいも大盛況でした。



バザー店での収益金は全て同対策協議会に寄付しています。

この寄付金は会員企業で働く障がい者の雇用定着を目的としたレクリエーションの一部に使われています。

今年も観劇「吉本新喜劇」に招待することができ、観劇後の集合写真でも伺えますが、皆さんに楽しんでもらうことができました。



支援学校との交流

季節毎にたまがわ高等支援学校の生徒さんたちに花壇いっぱいの花を植えていただいています。花は近隣住民の方々にも鑑賞していただき、当社の風物詩になってきました。夏の取れたての野菜の販売も続いています。職場への受入れは春先に工場見学、6月からは随時各支援学校と調整をし、職場実習の受入れを行っています。そして生徒さんの頑張る姿を何時も応援しています。



◆工場見学や職場実習の受入れ

支援学校からの工場見学は新学期からの職場実習先を選ぶなどの理由で3月から始まります。昨年の3月は東大阪支援学校の生徒さんが見学にされました。7月には同支援学校より職場実習に1名、来られました。

たまがわ高等支援学校からの工場見学は6月で、入学したばかりの一年生が社会勉強を兼ねて来られます。見学後の質疑応答では初めてのことばかりなので多くの質問をいただきます。この工場見学をきっかけに一年後、6月と11月に職場実習に来られます。今年も2名の受入れを行いました。



◆夏野菜の即売会

たまがわ高等支援学校の生徒さんが毎年8月にその日の朝に収穫したばかりの野菜を持ってきてくれます。この野菜は当社の昼休みの時間帯に販売され、社員が我先にと集まって飛ぶように売れていきます。朝の収穫から販売準備し、販売中も手を休めることなく、一日中頑張っている生徒さんには頭が下がる想いです。今年は校長先生も参加され、良い交流となりました。



◆季節を彩る花を花壇に♪

春にはスミレや菜の花、秋にはコスモスと季節を彩る花々を会社前の花壇に、たまがわ高等支援学校の生徒さんに植えてもらっています。植えられた花は成長が早く、近隣住民の方々にも立ち止まり鑑賞していただいています。



12月には葉牡丹を植えていただき、その成長を日々見ていますと段々と字が現れてきました。まさかと隣の建屋二階の窓から見ると「REX」の文字でした。植えるときに育った状態をイメージされていたとわ！先生方や生徒さんに感謝しております。



未来ある子どもたちへの支援

これからのこどもたちのために何ができるかを考え、児童施設への定期的な寄付や、会社行事への招待などを中心に支援を続けています。大阪市内にある児童団体には寄付金を毎月送金し、東大阪工場の近隣児童施設の子どもを年二回の会社行事に招待をしています。またペットボトルのキャップを全社で集め・支援団体に送り、世界中の貧困の渦にいる子どもたちへ繋がることを願っています。

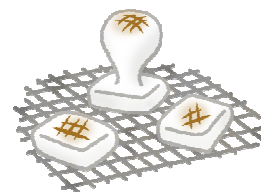


◆児童施設への寄付

定期的に児童施設への寄付を続けています。9月に奈良の児童発達支援施設「すくすく」に支援金を寄付しています。重度な障害をもって生まれてきた子どもたちですが、先生と居る施設内では精いっぱい明るく、楽しく過ごされています。他の施設の子どもたちともコミュニケーションを図る行事などに参加もされています。



年末は市内の児童施設「生駒学園」へお餅の寄付を続けています。同時に近隣の老人会へもお餅を寄付しています。年明けには同施設の子どもたちより毎年お礼の貼り絵が届きます。お餅を焼いて膨らんだ可愛い絵などが私たちを楽しませてくれています。



「貧困や機会差別をなくし、虐待に苦しむ子どもをゼロにする」を理念に活動されている「みらいこども財団」へ毎月寄付金の送金を続けています。同財団は大阪と東京を中心に児童養護施設への訪問活動を続けられています。



◆近隣児童施設の子どもたちを招待

年二回、本社工場近くの児童施設「若江学院」の子どもたちを会社行事に招待しています。5月は東大阪市民ふれあい祭りの模擬店に。

7月には工場内でのバーベキューパーティに先生と一緒に来てくれています。夏の夜は暑く、5月も天候良く熱い陽射しでしたが、そんな中でも子どもたちは元気に「かき氷」「ジュース」「お肉」をほおばり、「スパーボールすくい」「ボール投げ」「ビンゴ」などのゲームを時間いっぱい楽しんでくれています。

一緒に居る私たちもその様子を見ながら、毎年楽しいひと時を過ごしています。



地球環境を大切にした活動

「事業活動を通じて、環境保護に貢献する」を環境方針に掲げ、設計段階から環境配慮した商品や、生産活動における電力削減、徹底したゴミ分別による排出されるゴミの削減（リサイクル率向上）などを重要項目として取り組んでいます。特にゴミの分別に関しては、分別しやすくするための改善を推し進めています。



◆環境配慮型商品の開発

新商品は設計段階で環境配慮を行います。これまでの商品に比べどのような点が配慮されているかを明確にし、その内容が営業での商品特徴となります。切るでは「ダイヤコブラブレード No.72」の切断スピードのアップ、刃物の長寿命化など、つなぐでは「水道用 PE 管 E F コントローラ M E F 2 0 0 -Ⅲ」（写真）の軽量で長期の使用に耐える丈夫なアルミダイカストボディの採用など、多くの工夫を施しています。



◆ゴミの分別徹底への工夫

捨てるゴミを減らすためゴミを分別するための工夫・改善を続けます。廃プラスチックと、不燃混合廃棄物の最終保管場所には専用の車輪付きのカゴを設置しました。またこの置き場所に廃バッテリー電池の収集箱なども設置しました。



昨年はペットボトルのキャップ収集場所・ボックスを設置し、今年はこの場所にテプラシールの使用済みカートリッジ回収箱を設置し、回収の仕組みをつくりました。

細かな工夫の積み重ねですが、これらがリサイクル率の維持・アップに繋がっていることは確かで、今年も目標のリサイクル率97%を維持しました。



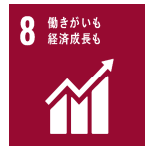
◆継続した環境活動を目指して

他社の活動事例や、自治体の環境への取り組みなどを把握することで当社の活動に取り込めるものはないかを知ることができます。一昨年よりそんな活動をベンチマークするようになり、7月に八尾市のリサイクルセンターの施設見学をしました。ここでは市内から集められたリサイクル可能な資源ごみを細かく分けて再資源化されています。これらの工程を知ること、次なる活動のヒントを探しています。



働きがいのある職場づくり

社は「三利の向上」より社員満足に繋がる「働きがいのある職場づくり」を進めています。社員が健康で、活力ある職場を目指し、「ありがとう経営」など色々な取り組みを続けています。



◆ありがとう経営の実践

ほめ合う文化をつくろう！の合言葉で始めた社内ネットワークの掲示板「ほめ合える掲示板」には多くの「ありがとう！」の書き込みがあります。また「ありがとうポスト」にも手書きのありがとうカードが何枚も入っています。書き込み件数は年々増え、その内容に「いいね！」のマークを付ける人も増えました。職場内・職場間での「ありがとう！」は、間違いなく組織の活性化に繋がっています。



◆効率よく仕事をするための工夫・改善

仕事を楽に！を目指し様々な場面、工程、場所で改善が行われています。必要なモノが直ぐにわかるように整頓をし、保管する資料や人に渡す資料は見やすくし、仕事の進み具合も分かるように「見える化」が浸透してきました。これらは全てみんなの工夫の成果で、年々改善提案の件数も増えています。



◆健康経営優良企業と呼ばれるために

昨年は経済産業省の制度「健康経営優良企業」の認定を受けましたが、今年は認定を受けることができませんでした。社員を集めて開催した健康教室など健康に良い取り組みを行っていますが、年々認定のハードルが高くなっていますので、もっと社員が納得・認識できる取り組み・活動が必要となります。

ストレスチェックのフォローや、健康診断のオプション受診など、今後は定着させていく必要があります。喫煙については健康教室や、啓蒙ポスターの掲示、分煙の改善など進めてきました。



また、2月からは新型コロナウイルスが世界中に蔓延し、日本でも、当社でもその対応に追われております。これらの予防対策や、今後に備えて、社員を守っていく仕組みなどの強化を進め、2021年度に再度「健康経営優良企業」の認定が受けれる会社を目指します。

